



2026年2月12日

各 位

会 社 名 株式会社イーディーピー  
代 表 者 名 代表取締役社長 藤森 直治  
(コード番号：7794、東証グロース市場)  
問 合 せ 先 代表取締役副社長 兼 総務部長 高岸 秀滋  
(TEL 06-6170-3871)

# 棚卸資産評価損、特別損失の計上及び2026年3月期通期業績予想の修正 並びに緊急経営改革の取組みに関するお知らせ

当社は、2026年2月12日開催の取締役会において、2026年3月期第3四半期連結会計期間において棚卸資産評価損及び特別損失を計上するとともに、最近の業績動向を踏まえ、2025年11月12日付で開示した2026年3月期(2025年4月1日～2026年3月31日)通期の業績予想を下記のとおり修正することとしましたのでお知らせいたします。また、緊急経営改革に取り組んでまいりますので、その概要も併せてお知らせいたします。

## 記

### 1. 棚卸資産評価損及び特別損失の計上

当社は、当第3四半期連結会計期間において、直近の受注状況に鑑み原石在庫の評価を見直した結果、棚卸資産評価損として売上原価に274百万円計上いたします。

また、第3四半期までの業績に鑑み、当社が保有する固定資産の一部について、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失1,065百万円を特別損失として計上いたします。特別損失(減損損失)の内訳は以下のとおりです。

当社

場所	用途	種類	減損損失 (百万円)
大阪府豊中市	本社	建物付属設備、構築物	6
		工具器具備品	2
		無形固定資産	1
大阪府豊中市 本社合計			9
大阪府茨木市	工場・開発センター	建物、建物付属設備、構築物	130
		機械装置	752
		工具器具備品	6
		無形固定資産	1
大阪府茨木市 工場・開発センター合計			891
その他（資産除去債務等）			99
当社合計			1,001

連結子会社

社名	場所	用途	種類	減損損失 (百万円)
エス・エフ・ディー株式会社	大阪府茨木市	本社	工具器具備品	0
			無形固定資産	0
			大阪府茨木市 本社合計	
SFD India Private Limited	インド Surat 市	本社	工具器具備品	2
			使用権資産	10
			無形固定資産	0
	インド Surat 市 本社合計		12	
SFD Antwerp BV	ベルギー Antwerp 市	本社	建物付属設備	1
			工具器具備品	3
			使用権資産	9
			建設仮勘定	32
			無形固定資産	2
ベルギーAntwerp 市 本社合計		49		
連結子会社合計				64

2. 2026年3月期業績予想の修正

上記損失の計上及び現在までの受注状況を考慮し、2026年3月期通期の業績予想を以下のように修正いたします。

(1) 連結業績予想 2026年3月期 (2025年4月1日～2026年3月31日) (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	未定	未定	未定	未定	未定
今回修正予想 (B)	500	△925	△910	△1,980	△136円00銭
増減額 (B－A)	—	—	—	—	—
増減率 (%)	—	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 2025年3月期	902	△976	△989	△2,306	△171円38銭

(2) 個別業績予想 2026年3月期 (2025年4月1日～2026年3月31日) (単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	未定	未定	未定	未定
今回修正予想 (B)	480	△780	△1,850	△127円00銭
増減額 (B－A)	—	—	—	—
増減率 (%)	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 2025年3月期	989	△873	△2,189	△162円72銭

(3) 修正の理由

2026年3月期通期の連結及び個別業績予想につきましては、種結晶及び宝石の販売の見通しが困難であることから未定としておりましたが、第3四半期までの業績に加え、現時点で入手可能な情報や予測等に基づき、2026年3月期通期の業績予想を算定し、公表することといたしました。

まず、製品分野ごとの売上高予想について示します。種結晶については、インドの大口ユーザーから5か月分の受注があり、新規を含む小口ユーザーからの受注も継続的に受けておりますが、輸出許可に申請から2～3か月を要する状況が続いておりますので、全ての受注案件を本年度中に出荷ができる訳ではありません。

宝石については、特にベルギーの子会社であるSFD Antwerp BVで当初の期待より伸び悩んでおります。また、国内では子会社のエス・エフ・ディー株式会社（以下「SFD」といいます。）で販売を始めておりますが、十分な売上に達しておりません。しかしながら、本年1月に東京で開催された国際宝飾展へ出展を行い、ラボグロウンダイヤモンドのPRに努めましたので、第4四半期はこれまで以上の売上进行を予想しております。

基板・ウエハにつきましては、前期以上の売上进行を達成できる見込みとなりましたが、年度当初に計画した売上には達しない見込みです。これは2インチウエハの開発が若干遅れたこと及び年度前半において欧米での販売が予想より少なかったことが主な要因です。国内につきましては、デバイス開発を行っている企業との連携が進んでおりますので、着実に売上の増加が見込まれます。

「その他」の製品は、光学部品の大手ユーザーの在庫が増加し、当該製品の当期での購入が停止されたことなどの影響から減少する見込みです。工具素材は前期並みと見られます。

損益改善の対策は、以下に示します緊急経営改革を進めております。種結晶の受注が少ない状況に鑑み、第3四半期以降に生産規模の縮小や各種支出の抑制を図ってまいりました。特に外注加工費につきましては、種結晶の外注生産やSFDからの宝石加工を一旦中止する等の対策を行っております。

以上の状況から、売上高、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益の予想を修正いたしました。

### 3. 緊急経営改革について

2026年3月期の連結売上高は前期から402百万円の減収、利益面におきましては前期に引き続き各段階で損失を計上、また、期初の想定を上回る損失となる見込みであります。当社は、この事態を重く受け止め、早期黒字化を目指し、以下の緊急の経営改革に全社一丸となって取り組んでまいります。

このためにはまず売上の拡大を進めることが重要です。本年度前半は種結晶の受注が大幅に低下しましたが、上述のように大口ユーザーから長期的な受注を獲得し、小口ユーザーについても複数の長期的な契約を獲得しております。しかしながら、種結晶の売上に多くを期待することは難しいと考えており、ウエハ・基板等のデバイス関連製品の販売促進と、国内での宝石販売に集中することを検討してまいります。

#### (1) 基板・ウエハユーザーとの緊密な体制の構築

国内外にダイヤモンドデバイスの実用化を目指す企業が活動を行っており、2年以内にも実用的なダイヤモンドデバイスが量産される可能性が出てきております。これらの企業の動向に合わせた製品開発及び供給数量の確保が求められております。当社はこれらの動向等に対応した開発及び製造体制の確立を目指しており、ユーザーとの緊密な関係を構築し、ウエハ等の製品の規格化等にも取り組むことで、市場形成を積極的に行ってまいります。

#### (2) ラボグロウンダイヤモンド事業の拡大

これまでの営業活動や宣伝などの結果、当社グループがラボグロウンダイヤモンド事業を推進していることは、国内外で認知されつつあります。また、日本及び東アジア地区ではJapan Made Diamondがブランド価値を持つ可能性が極めて高いことが判明しております。既に複数の宝石販売店や百貨店等との取引が始まっておりますが、さらに営業活動を拡大して受注の確保に取り組んでまいります。本日、別途開示しておりますSFDに対する債権放棄を通じて同社の財務体質の改善を図り、グループ全体として宝石事業を推進するための体制整備を行ってまいります。

#### (3) 海外子会社（SFD India Private Limited及びSFD Antwerp BV）の事業見直し

海外子会社2社については、当初期待した役割を果たせていないことから、その事業の在り方や営業活動について見直します。

SFD Indiaについては、輸入ライセンスを取得できたことから、営業活動を開始してSurat市に立地するメリットを活かす対応をいたします。一方、SFD Antwerpについては閉鎖を含む抜本的な構造改革を本年度中に実行いたします。

#### (4) 役員報酬減額

2026年3月期の業績状況に鑑み、全取締役は、2026年1月から6月まで月額報酬の50%から10%辞退す

ることといたしました。また、全監査役につきましても、月額報酬の20%から10%を同期間辞退することといたしました。

(5) その他の取り組み

上記の対策に加え、従来より取り組んでおります一般経費の削減にさらに注力してまいります。具体的には、外注費、動力費、人件費、業務委託費等の抜本的な見直しを行い、削減を進めてまいります。

以 上

<ご参考>

製品の分野別の売上予想の状況は以下のとおりです。

(単位：百万円)

	種結晶	宝石	デバイス関連	その他	合計
2025年6月30日予想（注）	585	578	610	88	1,861
2025年11月12日予想	未定	未定	450	30	未定
2026年2月12日予想	120	20	335	25	500

（注）2025年6月30日に公表した「事業計画及び成長可能性に関する事項」に記載した予想売上